

国家公務員のための

求職活動ヒント集

内閣府 官民人材交流センター

はじめに

職業人生が長くなり、高齢期になっても活躍する方が増えています。今や、定年で引退する方は少数派になりました。

60代、70代を視野に入れた職業生活設計を考えると、公務外への転職が選択肢の1つに入ってくることも多いでしょう。

公務外への転職を考える場合には、一定の準備が必要になります。

この「国家公務員のための求職活動ヒント集」は、その準備を進めるためのヒントをコンパクトにまとめ、役立てていただくことを目的に作成したものです。

このヒント集が、皆さまの求職活動の一助となることを願っております。

中堅・シニア層の転職の基本

✓ 中堅・シニア層の転職は即戦力採用

求人企業・団体に対し具体的にどのように貢献できるかを意識して、求職活動を行いましょう。

ご自分の能力や経験を棚卸しして、強みやアピールポイントを認識しておくことがおすすめです。

✓ 自分にとって重要な条件をしっかり整理

求職活動の軸がぶれてしまわないよう、仕事の内容、給与などの待遇、勤務地、勤務形態といった各種条件のうち、何を優先するのかをしっかりと整理しておきましょう。

✓ 気持ちの切り替えや柔軟さが必要

国家公務員時代に当たり前だと思っていたことが、民間部門では当たり前でない場合もあります。

国家公務員OBだからこそ歓迎される面がある一方で、国家公務員OBだからこそ組織になじまないのではと懸念を持たれる場合もあります。

組織や役割に応じて、気持ちを切り替え、柔軟に対応する姿勢を見せることが必要です。

✓ 再就職規制に注意

現職の国家公務員は、就いているポストの職務と利害関係のある企業・団体への求職活動が禁止されています。

【詳細は6ページのリンク先を参照】



職業人生が長期化している状況を反映して、中堅・シニア層向けに「セカンドキャリア」「再就職」「定年準備」などをテーマとする書籍がたくさん出ています。

ご自身に合うものを参考にして、キャリアの振り返り・棚卸しの機会を作ってみてはいかがでしょうか。

応募先を探す際のヒント

✓ 各種の転職支援サービスの活用

各種の転職支援サービスがありますので、その特徴を理解して活用しましょう。

	サービス	特徴
公共サービス	① 官民人材交流センター 「官民ジョブサイト」 (求人・求職者情報提供事業) (注1)	- 利用者は国家公務員のみであることを前提に企業・団体が求人を登録 - 求人への応募が再就職規制に抵触しないか事前にチェックを行う仕組み (注2)
	② ハローワーク	最も多数の多様な求人が登録
民間サービス	③ 求人情報サイト	サイトごとに特色あり (中高年向けや特定の業種・職種の求人に特化したもの、管理職の求人が多いものなど)
	④ 転職エージェント	- 求職者ごとに担当の転職エージェントが付く - 求人紹介やキャリアカウンセリング、面接支援などの多様なサービス - 紹介される求人は、転職エージェントが求人企業から請け負っているもの

(注1) 各府省の早期退職募集に応募して退職する方は、①と併せて、官民人材交流センターの別のサービス（民間の再就職支援会社を活用した再就職支援事業）も利用できます。

(注2) ②～④のサービスを利用する際には、再就職規制（利害関係のある企業・団体への求職活動の禁止）に抵触しないよう、ご自身で注意する必要があります。

✓ 自分にとって重要な条件と照らし合わせて選択

一般的に、すべての希望条件がそろって求人に会うことは多くありません。自分にとって特に重要な条件を満たす求人については、ひとまず話を聞いてみてもよいかもしれません。

状況によっては、面接でのやり取りを通じて、希望に近い条件に変更してもらえることもあります。

応募書類作成のヒント

✓ 基本書類の準備

求人への応募の際に必要な書類は、①履歴書と②職務経歴書の2点が一般的です。郵送する場合には送付状を付けます。

① 履歴書

連絡先などの基本事項、学歴、職歴、志望動機などを記載します。

② 職務経歴書

具体的にどのような職務を経験してきたのかを伝えるための書類です。年代ごとに記載する方法と、経験職務のまとまりごとに記載する方法があります。

数枚にわたりますので、全体の要約、保有スキル、自己PRを簡潔にまとめた記述を入れておくと、理解してもらいやすくなります。

これらの書類の一般的なマナーについては、書籍やインターネットなどでも情報がありますので、確認しておきましょう。

✓ 中途採用において特に重要視される「自己PR」

「職務経歴書」では、行政機関の仕事だからこそ得られた経験や成果、それらによって身に付いた能力や自身の変化・成長などをアピールしましょう。

■ アピールに際し、自身の「強み」が伝わるエピソードを盛り込んでみましょう。

- どのような視点や考え方で仕事を進め、どのような努力・工夫をして成果を上げたかがわかるエピソードや、精通している業界・地域、築いてきた人脈などがわかる内容を盛り込むことで、強みや人柄がより具体的に伝わります。

■ アピールは、客観的に伝わるよう工夫しましょう。

- 数値を入れて規模感を出したり、周囲の人から受けた具体的な評価などに言及すると、客観的に伝わりやすくなります。
- 「マネジメント」「部下育成」「利害調整」「わかりやすい説明」など、官民問わず必要な能力を書く場合は、特に具体的・客観的に伝わるようにした方がアピールになります。

自分の意図どおりに伝わる文章になっているか、他の方（友人・家族など）に見てもらうことがおすすめです。企業や業界のことを踏まえているか、自慢話ではなくどのように貢献できるかが伝わる内容となっているかといった点が重要です。

面接のヒント

✓ 面接でチェックされる人柄やソフトスキル

書類審査を通過した場合、1～2回の面接が行われることが多いようです。

面接では、専門知識・技能の確認だけでなく、その企業・団体で十分に力を発揮できるかどうか、人柄やソフトスキルも見られます。

企業や仕事によって重視するものは異なりますが、協調性、柔軟性、組織になじめるかといったことを見られることは多いと言えるでしょう。

< 国家公務員OBを採用した企業・団体の担当者の声 >

※当センターによるインタビュー

- 国家公務員OBの中には上から目線な方もいるが、採用した方はそうではなかった。
- オフィスにだけでなく、地域のイベントに人脈つなぎのために出るなど柔軟な行動をしてもらう必要があるので、そういうことができる方かどうかを確認した。
- うちでは状況に応じて仕事の担当ややり方はどんどん変わらざるを得ないので、慣れていただくしかないが、採用した方は大変物腰のやわらかい努力家の方であった。
- 自分の関心ごとだけでなく会社の全体方針を踏まえることができるかとか、関係者に適切な説明ができるコミュニケーション能力があるかといったことを確認した。

✓ 再確認したい面接の基本マナー

国家公務員の場合、転職経験のない方も多く、求職活動に慣れていないことが一般的です。

今さらと思わずに、面接における基本的なマナーについて、書籍やインターネットなどで再確認しておきましょう。

また、頭の中でのシミュレーションや、実際に練習をしてみるといったこともおすすめです。可能であれば、提出書類と同じように、他の方に見てもらって客観的なアドバイスをいただくとよいでしょう。

参考資料

転職支援

- 官民人材交流センター「官民ジョブサイト」（求人・求職者情報提供事業）

<https://www8.cao.go.jp/jinzai/kyuzin.html>

https://www8.cao.go.jp/jinzai/pdf/jigyom/leaf_kyushoku.pdf

- ハローワークインターネットサービス（厚生労働省）

<https://www.hellowork.mhlw.go.jp/index.html>

（履歴書・職務経歴書の書き方）

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/member/career_doc01.html

- マイジョブ・カード（厚生労働省）

<https://www.job-card.mhlw.go.jp/>

- 各地方公共団体のシニア就労支援

地方公共団体が独自のシニア就労支援を行っていることがあります

セミナー

- 官民人材交流センター「再就職準備セミナー」

<https://www8.cao.go.jp/jinzai/seminar.html>

- 人事院「生涯設計セミナー」

<https://www.jinji.go.jp/shogai-sekkei/nittei/index.html>

再就職規制

- 国家公務員の退職管理・再就職等規制について（内閣人事局）

https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/jinji_j.html

- 再就職等監視委員会

<https://www5.cao.go.jp/kanshi/index.html>

内閣府 官民人材交流センター

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-3



03-6268-7677